

大阪府河川整備審議会 令和5年度第2回治水専門部会 傍聴者意見

開催日時 令和5年10月16日 月曜日 午後5時00分から午後6時30分まで  
場所 大阪府西大阪治水事務所 1階会議室

(大阪市 中村氏)

**発言内容**

○傍聴者 住之江区の中村といいます。ちょっと30秒ごとに鳴らすとおっしゃるけれども、非常にこう、私の説明が下手くそかもわかりませんが、要因が多岐にわたってくるのでですね。

そう簡潔に要約して述べるというのが不可能だと思いますので、そこは勘弁していただきたいと思います。

まず、ここも今、議論が出ていますが、まとめとそれから12ページのところで、寝屋川流域において八尾実績降雨を超えるものがないというような表現がありますが、確かにその実績上はそうかもわかりませんが、今大阪府では三大水門を整備するということをやっておられるわけです。この三大水門の整備の時に私は度々質疑し、防災計画の時も文章まで出して出議したんですが、的確な回答がないままきてます。前回もこの委員会か他の委員会か忘れたんですが、一昨年かと思うんですけれども、近畿地整が淀川のポンプを整備するということについて、現状どうで将来どうするかということも教えていただきたいという事もそのままなしのつぶてでほったらかされています。

今回、なぜそういうことを私が言うかということ、三大水門の整備の時に河川構造物等審議会だったと思うんですけれども、その時に、その前にちょっとあればこれも教えていただきたいんですけど、三大水門というのは、私は間違っているかどうか分かりませんが、台風が来て高潮が起きて、それで同時に雨が降ったけども雨の流出係数が時間がかかるので、高潮が収まっている時に排水したら安全な台風対策ができるというように作られたんじゃないかと思うんですが、前回も他の委員会でありましたけれども、まず今台風と降雨とどういう状況、相関の中で起きているかと、その時委員の先生がご説明されたのは、今でも台風の前に大雨が降って、それから台風が来ることもありますよというような説明もされたことがあります。今回、降水雨量の問題は大問題だとは思いますが、まずその気象変動が起きているというのであれば、その三大水門の制御方針というんですかね、そういう高潮が起きた後に排水したらいいという方策が今でも通用するのかどうかということもぜひこれ検討していただきたい。今言いかけているのは、その河川構造物等審議会では、ある人は副水門だけ開けておいたらそれで寝屋川の方で流せますと、ある人はいやいやそれはちょっと無理だよと、けどもここの計算を変えればこれで流れることになりました。当時の委員長は簡単に言えば淀川へのポンプがどんどんどんどん水を排出すれば、そんな大水と高潮と問題を起すことはないわなということをお笑いながら小声でおっしゃったこともあります。だったら本当に今の三大水門を高潮対策として作っていいのか、僕はもともと高潮対策からもうその制度、その考え方自身を変えて、沖で大きい高潮を2割減水させれば、今の防潮堤で十分、これから温暖化が起きて潮位が50cm、60cm上がっても、その上がった量の2割を削減する施策があれば今の状態でいける。それを今回三大水門で完全に止めましょうという方針で今大阪府さんは色々整備されています。これは、私は絶対先

ほど予算がないというなお話もされてましたけども、その予算の問題も含めて今からやめるということは無理かも分かりませんが、何かちょっと考え方を再整備した方がいいのではないだろうかというように思います。まあちょっと何か要点がおかしく、それでもう一つは、さっき先生方もおっしゃったけれども、時期の不定で他事業ができなかったことだと。今回のポンプもですね、それは大阪府さんの、近畿地整の事業でしょうけども、大阪府さんの河川整備の考え方にはその事業に乗っかるということになっている。ところが近畿地整に、その河川、淀川の整備計画の時に意見書を出しても何の回答もないわけです。果たしてこういうことですね、本当の府民が安心しなさいという計画ができているとは私は思いませんので、是非よろしくお願いします。